

1. 公害対策

1) 廃棄物に関するガイドライン

キッコーマン環境部では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）に則った適正処理を継続していくため、グループ全体で引用するガイドラインを作成しています。

このガイドラインは、キッコーマングループにおける廃棄物（有価物を含む不要物）の保管から排出・最終処分の完了確認までの基本的な指針を示すもので、廃棄物処理法及び関連法令を順守することに加え、

○法令に基づく判断や対応があいまいになる点

○法令で求められる以上に排出者責任を果たす行動（遵守）について、キッコーマングループの規則として作成しています。

なお、このガイドラインは年1回、定期的な見直しを実施しており、また、関係法令が改正される際には随時改定を行っています。

2) 大気汚染の防止

キッコーマングループでは、硫黄酸化物（SOx）、窒素酸化物（NOx）、ばいじんについて地域ごとに定められた濃度規制、総量規制を順守し、事業所ごとに自主規制基準も設けて排出管理をしています。

具体的な施策としては、低硫黄重油の使用によるSOxの排出量削減、低窒素重油と低NOxバーナー装置の利用、低NOx型ボイラーの設置によるNOxの排出量削減、特A重油切り替えによるばいじんの排出量削減などを行っています。また、ダイオキシンの発生を防止するため、1998年までに焼却炉を全廃しました。その後もダイオキシン発生実態調査を実施し、その都度問題がないことを確認しています。

【キッコーマン食品野田工場の例】

野田工場には、大型ボイラー、小型ボイラー、冷温水ユニットなどの装置が数多く稼働しています。ボイラーの燃料は、特A重油から大部分を天然ガスに切り替え、一部にしょうゆ油を使用しています。

いずれも、性能検査や定期整備を行って維持管理を徹底させています。また、日常的にSOx、NOx、燃料使用量、ばい煙などを監視すると共に、蒸気流量計監視により蒸気使用量を把握しています。さらに、年2回、大気汚染防止法施行規則に基づき、ばい煙等の測定を行っています。

光化学スモッグが発生した時には、

- 第1次処置および第2次処置による燃料使用量の抑制
- 製造部門及び間接部門一時停止による蒸気使用量の抑制
- 大型ボイラーから小型ボイラーへの切り替えによる燃料使用量の抑制
- 燃料流量計監視による燃焼使用量の把握
- 緊急時ばい煙量減少処置報告書による結果報告を行っています。

3) 物流の大気汚染防止努力

総武物流株式会社は、1924年（大正13年）創立以来、キッコーマングループ各社の物流輸送を担当し、物流加工情報システム企業として拡大発展を図ってきました。現在では、「お客様にまごころをお届けする」ことをモットーに、広域物流企業として物流トータルシステムの提案ができるよう、経営力を高める努力を進めています。また、安全・確実・迅速・創意・工夫を行動規範として、経営効率を高めると共に、環境・人・企業の調和を目指しています。

【点検・整備自主基準】

自主基準項目の内、ドライバーが自ら行うのは、月1回の「黒煙」「エアコンガス漏れ」「タイヤ空気圧」チェックで、他項目は、総武物流と『業務委託契約書』を取り交わしている、専門の整備業者に委ねています。

● ドライバーの点検：タイヤの空気圧チェック



総武物流株式会社は、環境保全を目的にした取り組みを行っている運輸事業者として、「グリーン経営認証」（交通エコロジー・モビリティ財団認証）を取得しています。



4) 黒色汚染（黒かび）について

醸造工場を中心とした100～200mの範囲にある建物の屋根や樹木などが、一部黒ずんでくることがあります。これを「黒色汚染」（あるいは、『黒かび』）と言います。この汚れは、水（ときによっては若干の洗剤の併用）で洗浄するときれいに除去できますし、病原性は認められていません。しかし、キッコーマンは、近隣の方々のご意向を重視し、対策を進めています。具体的には、工場周辺の住宅を定期的に訪問してご意見やご要望をお聞きし、被害や苦情があれば、その都度話し合い、原因究明、対策に務め、納得がいただけるように対応しています。

【黒色汚染の原因】

主な原因は黒い色素を生成する『オーレオバシディウム属 (*Aureobasidium*)』が、屋根や壁などに付着して生育するために黒く見えるものです。この菌はエチルアルコールを栄養源として育ちますので、アルコールを含む環境を好んで生育します。

酒、味噌、醤油などの醸造工場では、酵母によってエチルアルコールが作られていますので、この菌が醸造工場周辺で生育することが多くなります。

オーレオバシディウム属は、世界的に、空気中に最も多く普遍的に存在する菌の一種で、北極上空9,000フィート(2,700m)の空気中にさえ多量に存在していたという報告があります。このように多く浮遊しているにもかかわらず、アレルギーを引き起こす原因となったという報告はありません。また、千葉県衛生研究所、順天堂大医学部、キッコーマン研究開発本部で詳細な動物試験を実施した結果でも病原性は認められず、安全性に関しては問題ないと考えています。

【キッコーマンにおける対応策】

(1) 発生源防止対策

工場から出てくる香気にアルコールが含まれていますので、これが工場の外に洩れないよう、次のように工程と設備の改善に努めています。

- 発生源密閉のクローズド・システムを採用し開放タンクなどはシートで覆っています。
- 工場からの排気ダクトにウォーター・スプレー（水洗浄装置）を設置し、排気中のアルコールを洗浄除去しています。
- 排気ガス中のアルコールを活性炭繊維に吸着し、回収する装置を設置しています。



(2) 環境調査

工場内、工場周辺の空気中のエチルアルコール濃度を定期的におよび必要に応じて測定、解析し、改善に役立てています。

キッコーマン食品野田工場製造第1部では、2003年から発酵タンクを開放型タンクから大型密閉型タンクに代えてきました。開放型タンクは2008年から使用を止めました。定期的に工場周辺の大気中アルコール濃度を測定していますが、作業方法の改善も含め、発酵タンクからのアルコール発生をかなり抑えることが出来ました。今後も黒色汚染防止に努めます。

● 密閉型発酵タンク



2012年、キッコーマン食品野田工場の仕込タンク室に、最大60 m^3/min の空気清浄効果を持つ、排気を水洗浄するアルコール除去装置を設置しました（試運転時に89%の除去率であることを確認しています）。



5) 緊急事態対応訓練

(1) キッコーマン食品野田工場

工場で使用している重油や製造・保管しているしょうゆおよび半製品のしょうゆなどが流出すると、周辺の河川の水質を汚濁させる原因となります。キッコーマン食品では、こうした事態に対処するため水質汚染防止には万全の体制を敷いていますが、万が一の発生に備えて、各工場で、それぞれの指示書に従っての緊急事態対応訓練を年1回以上行っています。



(2) 日本デルモンテ群馬工場

日本デルモンテ群馬工場では、2009年5月、マニュアルに従い緊急対応部品39点の点検を行いました。続いて、2010年1月に緊急対応施設の稼働状況を確認しました。当日は、排水処理沈殿槽に汚泥が浮上し外部に漏れ出したことを想定。緊急対応チーム9名が常備されている緊急対応部品（ゲート、土のう、出口バルブ、排水ピットポンプ、緊急用水中ポンプ、緊急用電源通電、緊急用ホース、排水予備槽）を順に確認し、さらに作業の点検を行い、沈殿槽出口バルブを切り替えることで、漏出が想定された範囲内で防止されることを確認しました。



(3) キッコーマン食品高砂工場

2010年10月、キッコーマン食品高砂工場では、しょうゆ輸送中の1klコンテナが横転してしょうゆが雨水路に流入したとの想定のもとに、設備グループ、総務グループ、運送担当業者が協働して緊急対応訓練を行いました。緊急対応指示書に従い、現場での異常発見から、関係者への連絡、緊急指令、現場周辺に土のう設置、外部への排水門閉鎖、雨水路を工程排水路に接続、汲み上げ開始に至る一連の作業を実際に行い、指示書と作業フローの整合性を確認しました。



6) 工場構内作業規定の制定

2010年12月、日本デルモンテ群馬工場では、外部の工事業者や輸送業者が工場内で作業を円滑、安全、かつ環境保全に配慮して遂行できるよう、工場構内作業規定などを成文化しました。内容は、工場内への入場や退場の手続き、作業時間、工場資産の保全、服装などを記した「工場内作業規定」と、環境に関する法規制の遵守、緊急事態への対応などを記した「間接影響緩和のための協力依頼事項」からなり、関連業者全てに標準化された構内作業の遂行を求めています。群馬工場では、この規定が正しく順守されるよう、外部業者を対象にした講習会を、2010年度は5回開いています。



2. 環境マネジメント

1) ISO14001認証取得

(1) ISO14001認証取得

キッコーマングループは、環境マネジメントを推進するにあたり、ISO14001国際規格を効果的なツールと考え、1997年5月にキッコーマン野田プラント（現：キッコーマン食品野田工場）で、日本の食品業界最初のケースとして、ISO14001の認証を取得しました。その後、「2005年度までに主要事業所で認証を取得すること」を目標にして作業を進め、2006年2月の近畿事業所の認証取得をもって目標を達成しました。

(2) 一括認証取得活動

2011年6月、キッコーマングループの国内主要事業所を対象とするISO14001の一括認証を取得し、環境マネジメント推進体制のより一層の強化を図りました。

● ISO14001一括認証取得審査（クローズングミーティング） （2011年5月、キッコーマン東京本社）



(3) 新しい国際規格 (ISO14001:2015) 認証への移行

2015年9月、ISO14001の国際規格自体が大幅に改定されたことに伴い、キッコーマングループでは、運用している環境マネジメントシステム (EMS) を新しい国際規格 (ISO14001:2015) に適合するものに改定するとともに、新しい国際規格に則った内部環境監査が実施できる監査員の養成などを推進し、2017年6月には新しい国際規格での一括認証を再取得しました。

● キッコーマングループISO14001:2015一括認証書



キッコーマングループは、2019年4月に、外部の認証機関によるISO14001認証維持審査を受けました。

● ISO14001認証維持審査（クローズングミーティング） （2019年4月、キッコーマン東京本社）



国内20エリア：①キッコーマン野田本社、②キッコーマン東京本社、③キッコーマンR&D、④キッコーマン食品野田工場（製造第1部、製造第2部、製造第3部）、⑤キッコーマン食品高砂工場、⑥キッコーマン近畿事業所、キッコーマンバイオケミファ（⑦江戸川プラント、⑧鴨川プラント）、⑨日本デルモンテ（群馬工場、長野工場）、⑩マンズワイン（勝沼ワイナリー、小諸ワイナリー）、キッコーマンフードテック（⑪本社工場および中野台工場、⑫江戸川工場、⑬西日本工場）、⑭北海道キッコーマン、⑮流山キッコーマン、⑯埼玉キッコーマン、⑰宝醤油、キッコーマンソイフーズ（⑱岐阜工場、⑲埼玉工場、⑳茨城工場）

2) ISO14001の実践

(1) 社内ホームページの開設

2006年2月、キッコーマン近畿事業所がISO14001の認証を取得し、これで2005年度までの中期目標としていた事業所の取得が全て完了しました。

近畿事業所は営業現場であるため、認証取得にあたっては出来るだけ業務の負荷を少なくし、省人・省時間で効率よく推進させなければなりません。その対策の一環として取り組んだのが、社内専用ホームページ（イントラネット）を立ち上げて文書管理を行う、完全ペーパーレス化でした。社員がイントラネットのメニューフレームをクリックすることで、意図する書類を画面に開くことが出来るようになりました。

このホームページが活用されるようになり、

- 支社全員への情報発信の一元化と情報共有・教育の徹底
 - リンク設定による審査・内部環境監査の効率化
 - 紙資源・印刷コストの削減と資料作成工程の削減
- が実現しました。前例のないホームページによる管理でしたが、外部審査員からも「使いやすい」と好評でした。

● ISO14001認証取得審査（キッコーマン近畿事業所）



キッコーマン東京本社のEMS本部事務局は、環境マネジメントシステム（EMS）の電子化を進め、2015年1月にEMS専用の社内ホームページ「東京本社EMSホームページ」を開設しました。

このホームページ上には、EMS関連文書（環境方針・目標、環境管理規定、EMS組織図、環境側面、対象となる法令と法規制順守定期記録、重要環境影響登録簿、マスタープラン、各種作業指示書、部署別の実施計画・評価基準と直近の進捗状況、内部環境監査および外部審査の結果報告書など）に加え、東京本社に配属・異動となった従業員向けの環境教育資料や東京本社EMS本部事務局が発行している情報誌「東京本社EMS通信」なども収納されており、従業員がいつでも簡単にアクセスし、閲覧、学習することができるように整備されています。この電子化は、EMS活動での紙文書の削減（紙使用量の削減）や廃棄物の削減（紙ごみの削減）にもつながりました。

キッコーマン野田本社も、環境マネジメントシステム（EMS）関連文書の電子化を進め、2016年4月にEMS専用の社

内ホームページ「野田本社ISO14001ホームページ」を開設しました。

キッコーマングループの社員は、このホームページにアクセスすることで、野田本社の環境方針や目標・目的、EMS組織体制、環境管理規定、所属ごとの環境側面、関連する環境法規制（一覧）、実施計画とその進捗状況、内部環境監査および認証機関による審査の結果などの報告書類、今後のスケジュールなどを、いつでも簡単に閲覧できるようになりました。

キッコーマン環境部は、2018年3月に社内ホームページ「環境部ホームページ」を開設しました。

このホームページ上には、キッコーマングループの環境憲章（環境理念、行動指針、重点課題）、長期環境ビジョン、中期環境方針や、これに基づいて策定される毎年の環境方針、環境マネジメント組織図、各事業所の公害防止管理者をまとめた一覧表、環境関連法規の改定情報、キッコーマングループ廃棄物ガイドラインや環境ヒヤリハット報告書など、環境マネジメントシステム（EMS）の運用上重要な情報が載せられています。また、環境部が従業員の環境意識の向上のために発行している環境メールマガジンや過去に開催された「環境講演会」の講演録なども収納されており、従業員が自分の都合のよい時間にアクセスし、環境関連情報を確認、学習することができるよう整備されています。

(2) ISO14001現場教育

キッコーマングループでは、2011年度までにISO14001の一括認証を取得する目標を定め、2009年度は取得意義の啓発、作業体制の構築などの活動を行いました。

取得意義の啓発活動の一環として、平成食品工業（現・キッコーマンフードテック）では、2009年度の全社員対象教育と階層別教育に工場全体の環境方針や環境マネジメントシステム研修を取り入れ、一括認証取得のための基礎作りを進めました。

また、流山キッコーマンでは、作業体制の構築として現場でのISOコパーソンの育成を掲げ、社員5名を対象に、月3回、グループ教育を実施しました。



VI 環境マネジメントの推進

(3) ISO集中講座の開催

キッコーマン環境部では、ISO国際規格(14001:2015)に沿ったEMS(環境マネジメントシステム)をグループ内に定着させるべく、毎年2~3回、グループ内企業の社員を対象に、ISO14001:2015規格要求事項や内部監査ポイントなどを中心にした2日間程度の監査員養成講座を開催してきました。

2022年度からは、現場でのEMSの具体的な運用をさらに充実させるべく、グループ内企業ごとに内部監査員(および資格取得希望者)を集め、ISO14001:2015の規格に沿った各職場での目標設定、順守義務、成果測定、リスク管理などを具体的に学ぶ、延べ11時間半の集中講座(月2回に分けて5回)を行うことにしました。

調味料を製造するキッコーマンフードテックでは、5月から7月にかけて集中講座が開かれ、4工場から14人が参加しました。同じ製造過程であっても、各工場での具体的な問題点の差が確認され、工場ごとのマニュアル作成や持続可能な仕組み構築の重要性が共有されました。

これからも、グループ内企業ごとの集中講座を開催していく予定です。



3) 環境監査の実施

(1) クロス内部監査の実施

キッコーマングループは、2012年度より、各事業所がISO14001の規格に基づいて実施している内部監査に他事業所の内部監査員が加わる、クロス内部監査を行いました。これは、各事業所間でISO14001推進システムのレベル合わせをすると共に、担当者相互のコミュニケーションを密にすることを目的としたものです。内部監査に新しい視点加わることは、内部監査員の実力や監査業務の質の向上にもつながり、現場でも好評でした。

● クロス内部監査



(2) 海外製造会社の内部環境監査

キッコーマン環境部は、毎年、海外3地域(アメリカ、ヨーロッパ、アジア)のうちの1地域を巡り、地域内にあるキッコーマングループの生産拠点の内部環境監査や関連施設の視察、従業員への環境教育を行っています。

a) アメリカ地区

2019年9月、キッコーマングループの品質、法務、環境分野を担当する役員および社員が、アメリカにあるしょうゆしょうゆ周辺調味料の生産拠点のKIKKOMAN FOODS, INC. (KFI: アメリカ)のウォルワース工場を訪問し、それぞれの担当分野から、場内の視察と従業員への教育を行いました。

環境担当の社員は、KFIウォルワース工場の環境保全活動の現状調査(省エネ、CO₂や廃棄物の排出量の削減、用水使用量の削減など)、場内の環境関連施設(排水処理施設や廃棄物保管施設)の視察を行うとともに、従業員に対する環境教育も実施し、従業員の環境保全に対する意識のより一層の向上を図りました。

● KIKKOMAN FOODS, INC. (KFI) 従業員に対する教育 (2019年9月)



VI 環境マネジメントの推進



同時に、同地域内にあるキッコーマングループのマーケットリサーチ会社KIKKOMAN MARKETING AND PLANNING, INC. (KMP：アメリカ) やサプリメント製造販売会社COUNTRY LIFE, LLC (CLL：アメリカ) なども訪問し、施設の視察を行うとともに、従業員との情報交換や環境教育を実施しました。

● COUNTRY LIFE, LLC (CLL)



● COUNTRY LIFE, LLC (CLL) 従業員に対する環境教育 (2019年9月)



2022年9月、キッコーマングループの品質、法務、環境分野を担当する役員および社員が、ブラジルにある生産拠点のKIKKOMAN DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO DE ALIMENTOS E BEBIDAS LTDA. (KDB：ブラジル) 及び卸売会社のTRADBRAS IMPORTACAO E EXPORTACAO LTDAを訪問し、それぞれの担当分野から、場内の視察と従業員への教育を行いました。

環境担当の社員は、KDBの環境保全活動の現状調査(省エ

ネ、CO₂や廃棄物の排出量の削減、用水使用量の削減など)、場内の環境関連施設(排水処理施設や廃棄物保管施設)の視察を行うとともに、従業員に対する環境教育も実施し、従業員の環境保全に対する意識のより一層の向上を図りました。

また、アメリカにあるしょうゆの生産拠点であるKIKKOMAN FOODS, INC. (KFI：アメリカ) のフォルサム工場、販売会社のKIKKOMAN SALES USA, INC. (KSU：アメリカ)、卸売会社のJFC INTERNATIONAL INC. (JFC：アメリカ) も訪問し、それぞれの担当分野から、場内の視察と従業員への教育を行いました。

環境担当の社員は、KFI工場の環境保全活動の現状調査(省エネ、CO₂や廃棄物の排出量の削減、用水使用量の削減など)、従業員に対する環境教育を実施し、従業員の環境保全に対する意識のより一層の向上を図りました。

● 2022年9月 KDB (ブラジル)



● 2022年9月 KFI (アメリカ)



b) ヨーロッパ地区

キッコーマングループの品質、法務、環境分野を担当する役員と社員が、2018年9月、ヨーロッパにある生産拠点のKIKKOMAN FOODS EUROPE B.V. (KFE：オランダ) を訪問し、それぞれの担当分野から場内の視察と従業員への教育を行いました。

環境担当の社員は、KFEの環境保全活動の現状(省エネ、CO₂・廃棄物排出量削減、用水使用量削減など)を調査し、場内の環境関連施設(排水処理施設や廃棄物保管施設)の視察を行うとともに、従業員に対する環境教育も実施し、従業員の環境保全に対する意識のより一層の向上を図りました。

VI 環境マネジメントの推進

● KIKKOMAN FOODS EUROPE B.V. (KFE) 従業員に対する教育 (2018年9月)



また、同地域内にあるキッコーマングループの卸・販売会社のKIKKOMAN TRADING EUROPE GmbH (KTE：ドイツ) や JFC INTERNATIONAL (EUROPE) GmbH (JFCEU：ドイツ)、JFC (UK) LIMITED (JFCUK：英国) やJFC HOLLAND B.V. (JFCHL：オランダ) なども同時に訪問し、施設の視察を行うとともに、従業員との情報交換や環境教育を実施しました。

● JFC INTERNATIONAL (EUROPE) GmbH (JFCEU) 従業員に対する環境教育 (2018年9月)



● JFC (UK) LIMITED (JFCUK) 従業員に対する環境教育 (2018年9月)



c) アジア地区

キッコーマングループの品質、法務、環境分野を担当する役員と社員は、2018年8月には中国にある生産拠点の昆山統万微生物科技有限公司 (KPKI：中国) および統万珍極食品有限公司 (PKZ：中国) を訪問し、場内の視察と従業員への教育を行いました。

今回の視察では、環境担当の社員は、両工場での環境保全活動の実績(省エネやCO₂排出量削減、廃棄物量削減、用水量削減など)を聞き取り調査した後、場内にある環境関連施設(排水処理施設や廃棄物保管場所など)の視察を行いました。また、キッコーマングループの環境保全活動情報(直近の活動実績など)を報告することにより、環境情報の共有化に努め、従業員への環境教育も実施し、従業員の環境保全意識の向上を図りました。

● 昆山統万微生物科技有限公司 (KPKI) 従業員に対する教育 (2018年8月)



● 統万珍極食品有限公司 (PKZ) 視察 (2018年8月)



また、同時に、中国にある卸・販売会社の亀甲万(上海)貿易有限公司 (KST：中国) なども訪れ、場内施設の視察を行うとともに、情報交換会や講義を実施し、環境関連情報の共有化と従業員の環境保全意識の向上に努めました。

● 亀甲万(上海)貿易有限公司(KST)従業員に対する教育 (2018年8月)



VI 環境マネジメントの推進

2023年9月、キッコーマングループの品質、法務、環境分野の担当者が、アジア地域の、しょうゆの生産拠点のひとつであるKIKKOMAN (S) PTE LTD (KSP：シンガポール) やコーン製品の生産拠点SIAM DEL MONTE COMPANY LIMITED (SDM：タイ) の視察を実施しました。両工場の現場を視察しながら、省エネ・廃棄物削減などの取り組みを調査するとともに、従業員に対する環境教育も実施しました。シンガポールでは、KSPが支援した人工池「キング・フィッシャー・レイク」造成プロジェクトの現場(国立公園「ガーデン・バイ・ザ・ベイ」) やマングローブ植樹活動の現場(スンガイ・ブロー湿地保護区) も視察しました。

また、シンガポールにあるグループの卸・販売会社のJFC SINGAPORE PTE.LTD. (JFCSG)、KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD (KTA) やJFC (THAILAND) CO., LTD. (JFCTH：タイ)、DEL MONTE ASIA PTE LTD (DMA) なども訪問しました。

従業員に対する環境教育も実施し、従業員の環境保全に対する意識のより一層の向上を図りました。

● KIKKOMAN (S) PTE LTD (KSP)の従業員に対する環境教育 (2023年9月)



● SIAM DEL MONTE COMPANY LIMITED(SDM)の従業員に対する環境教育 (2023年9月)



(3) ISO14001認証未取得会社・事業所の監査

キッコーマングループは、ISO14001認証を取得していない会社・事業所のうち、主な会社・事業所については別途内部環境監査を実施し、環境汚染防止や環境負荷の低減に努めています。

2016年度は、キッコーマン総合病院と総武物流および総武サービスセンターの内部環境監査を実施しました。いずれの会社・事業所でも、環境マネジメントシステムが適切に運用されていました。

● 環境マネジメントシステム (EMS) 監査 (2016年10月、キッコーマン総合病院)



● 現場視察：土のう置き場(緊急事態対応装備品)のチェック (2016年10月、総武物流)



4) 社員への環境教育

キッコーマングループが定期的に行っている社員研修カリキュラムに、環境保全に関する講座を積極的に組み入れることで、グループ全体への環境保全意識の向上を図っています。

(1) 新入社員研修

キッコーマン環境部では、毎年、新入社員向け「環境研修」を実施しています。

2024年度も、4月に、Cコース(企画・管理、営業など総合職対象)とE・Tコース(企画・事務、製造・設備など一般職対象)2回を実施しました。

Cコースでは、「地球課題としての環境問題」の数々を説明した上で、現在「キッコーマングループが長期環境ビジョンのもとで取り組んでいる様々な環境保全活動」が、世界課題の解決につながっていること、そして、キッコーマンの企業価値向上に貢献していることを説明し、企業活動における環境問題の重要性に理解を深める内容で行いました。

VI 環境マネジメントの推進

E・Tコースでは、「現場における環境パフォーマンスを向上させるために導入されているISO14001」の重要性を説明した上で、現場で実際に取り入れられている「ISO14001の運用実態と環境問題解決への活用法」を紹介し、これから始まる「現場での具体的な仕事内容」に理解を深める内容で行いました。

● Cコース研修風景 (2024年4月、キッコーマン野田本社)



● E・Tコース研修風景 (2024年4月、キッコーマン野田本社)



(2) 環境メールマガジン

キッコーマン環境部は、2016年6月から、キッコーマングループ社員向けに環境メールマガジン「シグナルe³」(シグナルイーキューブ)の発行・配信を開始しました。

このメールマガジンは、月1回の発行で、

- ①最近の環境関連ニュース・情報
- ②生活エコ情報：身近でできる省エネ・廃棄物削減・節水活動など

を簡単にまとめたものです。社員一人ひとりが世界での環境政策・活動などに関する知識を深め、環境に対する関心を持ち、日常生活の中で環境配慮・保全意識を持った行動を採るように働きかけることを目的としています。

2023年9月からは、メールマガジンを大幅にリニューアルし、名称も「環境コンパス」と改めました。これまでよりも、フォントを大きく、写真や絵を増やし、内容的にも自社グループ事例も多く紹介し、気軽に読める内容を目指しています。気候変動をはじめ、私たちをとりまく環境はめまぐるしく変わっており、日々さまざまなトピックが新しく取り上げられています。そんな中、時代の先を読み、進むべき方向をイメージするきっかけにしてほしいという思いを込め、このメルマガには「羅針盤」を意味する「環境コンパス」と名付けました。

● メールマガジン「環境コンパス」



(3) 環境講演会

キッコーマン環境部は、環境保全に関する従業員向け講座を開催することで、全従業員の環境保全意識の向上に努めています。

a) C.W.ニコル氏講演会

2015年9月、キッコーマン野田本社とキッコーマン東京本社において、長年に渡って環境保全活動に取り組んでおられるC.W.ニコル氏を講師に招き、講演会を開催しました。

● C.W.ニコル氏講演会 (2015年9月、キッコーマン野田本社)



● C.W.ニコル氏講演会 (2015年9月、キッコーマン東京本社)



VI 環境マネジメントの推進

英国ウェールズ出身のC.W.ニコル氏は、1980年から長野県に住み、1995年には日本国籍を取得。「C.W.ニコル・アファンの森財団」を設立して、荒廃していた黒姫の山林の保全に取り組み、自然を回復させた実績をお持ちで、また東北大震災復興支援にも活動を展開しておられます。

講演会では、ニコル氏は、ご自身のこれまでの実体験をユーモアたっぷりに説明され、一人一人がもっと森や水、動植物など、自然の重要性に気づき、深く関わろうとする姿勢を持ってほしいと話されました。

講演会に参加した社員からは、「自然と触れ合うことの大切さがよく分かった」「自然豊かな日本の良さを改めて再認識した」「自分の身近な自然について考え直すよいきっかけになった」などの意見が寄せられました。

後日、講演内容とキッコーマングループCEOとの対談も掲載した冊子『『豊かな自然を考える講演会』記録 C.W.ニコル氏をお招きして』を制作し、グループ内社員に配布することで、当日参加できなかった社員にもニコル氏の話に触れ、自然の大切さについて考える機会を設けました。

- 冊子『『豊かな自然を考える講演会』記録 C.W.ニコル氏をお招きして』



b) 養老孟司氏講演会

2016年9月、キッコーマン野田本社とキッコーマン東京本社において、養老孟司氏を講師に招き、講演会を開催しました。

- 養老孟司氏講演会 (2016年9月7日、キッコーマン東京本社)



- 養老孟司氏講演会 (2016年9月8日、キッコーマン野田本社)



神奈川県鎌倉市生まれ、東京大学名誉教授で解剖学者の養老孟司氏は、ご自身の専門領域を超えて、人間、文化、環境など、広い分野で洞察力のある発言をされておられます。特にご自身で「趣味は昆虫採集」とおっしゃるだけに、昆虫に関する非常に深い造詣をお持ちです。

養老氏は、ご自身の長年に渡る昆虫採集を通して見てきた自然環境の変化に危機感を感じておられることを話され、人間は身体という仕組みを通して自然と深くつながっているのだから、人工物で溢れた都会生活に慣れることなく、暮らしの中で自然を考えることが非常に重要だと説かれました。

講演会に参加した社員からは、「知識・経験豊富な先生のユーモアに富んだ話は、抜群に面白かった」「『環境』の捉え方が、ありきたりな自然科学的なものではなく、先生独特の、哲学的な捉え方で、大変興味深く、とても勉強になった」「先生の『人間自身も自然そのものであり、それゆえに自分と環境に境目がない』との、非常に哲学的な考え方を伺って、自身と環境とのつながりをより強く実感することができた」「ありふれた『自分』『自然』『意識』などの言葉自体についても、いろいろと考え直すきっかけになった」などの意見が寄せられました。

後日、講演内容と、養老氏来社時に催したキッコーマングループCEOとの特別対談の様子とをまとめた冊子を社内配布し、当日は参加できなかった社員にも、養老氏の講演内容を紹介し、自然について考える機会を設けました。

- 冊子『『豊かな自然を考える講演会』記録 養老孟司氏をお招きして ～環境を考える上で大切なこと～』



VI 環境マネジメントの推進

c) 岸由二氏講演会

2017年9月、キッコーマン野田本社とキッコーマン東京本社において、岸由二氏を講師に招き、講演会を開催しました。

● 岸由二氏講演会

(2017年9月21日、キッコーマン野田本社)



● 岸由二氏講演会

(2017年9月20日、キッコーマン東京本社)



慶應義塾大学名誉教授(進化生態学)、国土交通省河川分科会委員、NPO法人鶴見川流域ネットワーク代表理事、NPO法人小網代野外活動調整会議代表理事などをお務めになる岸由二氏は、「雨水が水系に集まる大地の領域」すなわち「流域」の重要性に着目し、『水を、何トンの水とかいうように「モノ」として考えることと、大地に即して流れる「水のカタチ」、すなわち流域としてとらえることとは根本的な違いがある。水を流域的に見れば、水への働きかけも実践的にできるようになる』という考え方から、日本各地で流域全体を視野に入れた治水活動に力を入れておられます。また、流域が持つ多様な自然力を生かして、『それぞれの姿をしっかりと観察して変化を見定め、それぞれの自然力に適した保全活動を推進する』という考え方の下に、三浦半島小網代の森の保全活動を精力的に進めておられます。

約1時間半の講演会では、「流域が育む奇跡の自然：小網代の谷 ～環境を新しい視点から～」と題し、「水を流域として考えることの重要性」「流域全体を考えない治水活動の危うさ」「流域の視点を生かした防災のあり方」「流域を課題に含め

ていない日本の教育の欠陥」などを具体的に指摘したうえで、「一つの流域の自然力をまるまる保全している小網代の森」の現状を紹介され、『自然は、一律的に「完成した統合的な生態系」などとして安定することはない。自然を保護するには、それぞれの姿をしっかりと観察して変化を見定め、それぞれの自然に適した目的を皆で見定めることが大切である』『人間は、二本の足で大地に登場して以来、地球と深く関わってきた。「人間の手が入らないことが自然だ」ということではなく、「自然にどう手を入れるのか」「どう手入れをすれば合理的か」という視点で自然に向き合うことが大切だ』と説かれました。

お話の中では、たとえば『小網代の森のアカテガニは、森に棲み、海で産卵し、子ガニは干潟で成長する。だから、「この地域には、こんな植物がいるから、その場所を守れ」といった自然界の限られた領域だけで生態系を守ろうとする考え方では、保全はうまくいかない。森・干潟・海をひとつくりにした流域思考で考えることが重要になる』などという分かりやすい具体例を、いくつも紹介されました。

講演会に参加した社員からは、「実体験に基づいたお話でよかった」「岸先生の自然保護活動はアグレッシブで励みになった」「身近な生態系の話から哲学的な話まで非常に興味深かった」「流域思考という考え方は興味もてた。もっと深く知りたいので本を読みたいと思う」「自然保護と災害の関係性が理解できた」「小網代の森に行って、講演ビデオで拝見したカニを見てみたいと思った」などの感想が寄せられました。

後日、講演内容と、岸氏来社時に開催したキッコーマングループCEOとの特別対談とをまとめた冊子を社内配布し、当日は参加できなかった社員にも、岸氏の講演内容を紹介し、自然について考える機会を設けました。

● 冊子『豊かな自然を考える講演会』記録 岸由二氏を

お迎えして「流域が育む奇跡の自然：小網代の谷」

(2018年9月12日、キッコーマン東京本社)



d) 南利幸氏講演会

2018年9月、キッコーマン野田本社およびキッコーマン東京本社において、南利幸氏を講師に招き、環境講演会「気象情報から読み解く異常気象」を開催しました。

VI 環境マネジメントの推進

- 南利幸氏講演会
(2018年9月12日、キッコーマン東京本社)



- 南利幸氏講演会
(2018年9月13日、キッコーマン野田本社)



南利幸氏は、株式会社南気象予報士事務所の代表取締役。広島大学大学院生物圏科学研究科で気象学を学ばれ、日本気象学会、日本生気象学会、日本花粉学会などに所属、NHK総合テレビ「おはよう日本」やNHKラジオ「かんさい土曜ほっとタイム」などに出演され、気象の解説に取り組んでおられます。

- 南利幸氏
(環境講演会(キッコーマン東京本社)にて)



「気象情報から読み解く異常気象」と題した約1時間半の講演で、南氏は「昔の人は『カエルが鳴くと雨が降る』『朝虹は晴れて夕虹は雨』『月が赤く見ると雨』など、身の回りの動植物の活動や出来事などをよく観察し、その変化から天気を予測していた。現在は、最新式の気象衛星と地上での観測データを基に、大型のコンピューターを使って詳細な天気予報ができるようになったが、その一方で、そうした身の回りの動植物を大切にしておく観察するということが、感覚的に無くなってきているところは残念に思う」と述べられました。続いて具体的な「天気予報」を題材に、天気図、天気予報用語の意味などをクイズなども交えながら分かりやすく解説されたうえで、最近の気温上昇や集中豪雨などの異常気象に触れ、「天気マークは晴れの表示でも、『ところにより一時雨』などの記載があれば集中豪雨による大災害があり得る」など、異常気象の中での天気予報の見方について注意を呼びかけました。そして、「気温上昇は、これまでの歴史と較べても急速で、たぶん二酸化炭素(CO₂)を大量に放出していることが要因だと思うし、それを止めない限りは今後もどんどん上昇していくと考えたほうがよい」「その対処としては、地球レベルで、化石燃料を使わない社会、二酸化炭素(CO₂)をそれほど出さない生活というものを構築していくこと、また一人ひとりの生活レベルでは、これからは何が起るかわからないということを大前提にして備えることが、それぞれ必要ではないか」と指摘されました。

講演会に参加した社員からは、「テレビで見る南さんが大好きなので、講演が聞いてよかった。トークはユーモアたっぷり、プレゼン(テーション)力の高さに感銘を受けた」「天気図や降水確率の意味、天気予報のしくみなどがよく理解できた」「気温と環境について考えるよい機会になった」「今年の夏の暑さは凄かった。暮らしに密接な講演内容だったので、家族にも話したいと思った」などの感想が寄せられました。

後日、講演内容と、南氏来社時に開催したキッコーマングループCEOとの特別対談を掲載した冊子を社内配布し、当日は参加できなかった社員にも、南氏の講演内容を紹介し、自然について考える機会を設けました。

- 冊子『『豊かな自然を考える講演会』記録 南利幸氏をお迎えして「気象情報から読み解く異常気象」



VI 環境マネジメントの推進

e) 河口真理子氏講演会

2019年10月、キッコーマン野田本社およびキッコーマン東京本社において、河口真理子氏を講師に招き、環境講演会「これからの『おいしい記憶』を考える」を開催しました。

● 河口真理子氏講演会

(2019年10月9日、キッコーマン東京本社)



● 河口真理子氏講演会

(2019年10月10日、キッコーマン野田本社)



河口真理子氏は、株式会社大和総研・調査本部の研究主幹。一橋大学大学院修士課程で環境経済を学ばれ、環境経営・CSR・ESG投資、エシカル消費などサステナビリティ全般が御専門。アナリスト協会検定会員、早稲田大学非常勤講師、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、NPO法人・日本サステナブル投資フォーラム共同代表理事、エシカル推進協議会理事、公益財団法人プラン・ジャパン評議員、サステナビリティ日本フォーラム評議委員、WWFジャパン理事、環境省中央環境審議会臨時委員、経済産業省家電リサイクルにかかわる審議会、東京都キャップ&トレード委員会委員などを務めておられます。

● 河口真理子氏

(環境講演会(キッコーマン東京本社)にて)



河口氏は、キッコーマングループのコーポレートスローガン「おいしい記憶をつくりたい。(seasoning your life)」になぞらえて「これからの『おいしい記憶』を考える」と題した約1時間半の講演において、「人間の活動は地球の環境容量を超え、生物学的(気候変動問題、砂漠化、水資源・資源の枯渇、生物多様性喪失、海洋生態系の劣化)に、また社会的(貧富の差の拡大、難民・移民問題、奴隷・児童労働、テロ・サイバーテロ)にも、その持続可能性に疑問符が付き、見直しを迫られている。問題に対する危機意識を持ち、バックカasting思考(目標とする未来を起点に、今何をすべきかを考える未来起点の発想法)で我々の世界を『変革』する事が必要だ。それは、『大きな機会の時』でもある。パリ協定やSDGsなどの世界的な取り組みは、これまでの『経済ファースト』から『地球・社会ファースト』へのパラダイムシフトを目指した活動だ。金融は、これまでの経済主体の行動を規定する価値基準を変える重要な役割を担うだろう」と指摘されました。

講演会に参加した社員からは、「環境問題に対する意識が高まりました。SDGsへの理解も深まりました」「キッコーマンのビジョンを考慮したテーマで良かった。声も通り、分かりやすかった」「現在の環境がいかに危機的な状況かを再認識し、自分にも何ができるか考えるきっかけになった」「ISO14001事務局をやっているので、環境経営に対する意識が高まった」「今回は特に、IRの仕事で投資家と接しているので、一層興味深く聞きました」「環境問題への向き合い方を変えようと思った。環境への配慮と経済的な成長が両立できていない現状は残念です。同じベクトルにするための努力が、ささやかなことでもいいから、出来るようになればと思う」などの感想が寄せられました。

後日、講演内容と、河口氏来社時に開催したキッコーマングループCEOとの特別対談を掲載した冊子を社内配布し、当日は参加できなかった社員にも、河口氏の講演内容を紹介し、自然について考える機会を設けました。

VI 環境マネジメントの推進

- 冊子『『豊かな自然を考える講演会』記録 河口真理子氏をお迎えて これからの『おいしい記憶』を考える』



(4) eco検定(環境社会検定試験)®

キッコーマングループでは、社員の「eco検定(環境社会検定試験)®」受験を推奨しており、受験対策の通信教育の受講料の一部を支援しています。

「eco検定®」は、東京商工会議所主催の、環境に関する知識を問う検定試験です。検定試験では、環境問題への取り組みの歴史から、現在地球規模で起きている、複雑化かつ多様化したさまざまな環境問題、持続可能な社会の実現に向けた行動計画、各主体の役割・活動まで、幅広い環境に関する問題が出題され、合格者はエコピブルと認定されます。環境に関する幅広い知識を身につけ、事業活動に「環境」からの視点・意識を盛り込んだ提案・活動・支援ができる人材の育成は、企業の環境経営の推進にとって必要不可欠であり、eco検定®を社員の教育ツールの一つとして活用する企業が増えています。

5) グループ内の情報交換

(1) 環境関連法令の情報共有

キッコーマン環境部では、法令などの改正に関し、各方面から送られてくる情報や、官報(インターネット)、各種刊行物、講演会、関連団体などを介して知りえた情報を吟味し、簡単な解説を加え、キッコーマングループ内担当者に随時メール発信を行うシステムを整えました。この他、必要な場合には特別説明会の開催なども行い、法令情報の徹底化を図っています。頻繁に改正が加えられ、担当者個人での緻密なフォローが難しい法令に対して、組織的に対応するシステムとして好評を得ています。

(2) 環境ヒヤリハット報告の運用

キッコーマングループがISO14001の一括認証を取得したのを機に、各拠点(事業所)は、環境マネジメント強化を目的に、環境ヒヤリハット報告の運用を開始しました。

「環境ヒヤリハット」とは、企業活動の中に潜んでいる、環境汚染などに結びつく危険性のある事象(それゆえに、心理的にヒヤリとしたり、ハッとしたりした経験)を指します。

2012年度からは、各拠点でこうした「環境ヒヤリハット」事象が発生した場合には、報告の義務付け、事象発生原因の調査、有効な再発防止策の検討、これらの報告書とりまとめ、各拠点への配布によって、環境汚染などの事前抑止力の向上が図られています。

● 環境ヒヤリハット報告書



(3) 事業所訪問

キッコーマン環境部では、2012年度より、部員2名がグループ内21事業所の環境管理部署を個別に訪問し、実務管理者を対象に、CO₂削減状況と環境管理状況などの意見交換、環境保全活動の総括と環境関連法規の説明などを始めました。これは、実施現場と統括事務局間とのコミュニケーションを密にし、グループ連携の広がり強化することを目的としたものです。

この活動は、2019年度まで続けられました。

6) 専門教育

(1) ISO14001内部環境監査員養成講座

キッコーマン環境部では、毎年、社内各事業所の内部環境監査員候補者(40名前後)を対象にして、環境国際規格ISO14001に基づく内部監査に必要な知識と監査技能を習得するため、外部講師による、「ISO14001内部監査員養成講座」を開催しています。講座終了時点で修了評価を行い、合格者には修了証が発行されます。

2023年9月、社外の専門講師を招き、内部環境監査員養成講座を開催しました。今回は同じ内容の研修を、午前が集合形式、午後がリモートと対象者を分けて行いました。受講したキッコーマングループ各社の社員計42名が、環境マネジメントシステム(Environmental Management System(EMS))、ISO14001規格要求事項、内部環境監査などについて学び、新たに内部環境監査員となりました。

VI 環境マネジメントの推進

●内部環境監査員養成講座 (2023年9月、キッコーマン野田本社)



(2) 内部環境監査員力量向上研修

キッコーマン環境部は、2013年度から、各拠点の内部環境監査員を対象とする力量向上研修を実施しています。研修では、監査において必須のISO14001規格要求事項に関する講義の他、各拠点の具体的な監査ポイントや監査の際の着眼点などについても触れ、監査員ひとりひとりの監査能力の向上を図っています。

2019年9月、キッコーマン東京本社において、外部から専門講師を招き、ISO14001内部環境監査員資格を有する社員を対象に、内部環境監査員力量向上研修を開催しました。

また、キッコーマン環境部の社員がISO14001認証取得企業のエリア（工場や事業所）を順番に回り、各エリアの内部環境監査員などを対象に、新しい国際規格ISO14001:2015に則った内部環境監査能力の向上を目的とする講習会も開催しました。

●ISO14001:2015講習会 (2019年9月、キッコーマン東京本社)



(3) 排水処理施設管理者研修

キッコーマン環境部では毎年、社外の排水処理専門業者を講師に招き、キッコーマングループ国内主要拠点の排水処理施設管理者を対象とした「排水処理施設管理者研修」を実施しています。

この研修で受講者は、まず排水に関する規制と違反事例、罰則、排水の水質の指標とその特徴・注意点、測定方法・測定機器など、排水処理施設の管理上必要不可欠な知識・知見を再確認します。そのうえで、好気的な排水処理方法である標準活性汚泥法を題材に、負荷量を考慮した安定的な施設の運転設計、さらにはセンシング技術とAI（人工知能）の活用によるIOT自動化の事例を学びます。

また、研修終了後には習熟度テストを実施し、受講者の理解度をチェックしています。

●排水処理施設管理者研修 (2022年、キッコーマン野田本社)



(4) 産業廃棄物管理者研修

キッコーマン環境部では毎年、社外の専門家を講師に招き、国内生産拠点の産業廃棄物管理者などを対象とする「産業廃棄物管理者研修」を実施しています。

この研修では、キッコーマングループが「廃棄物処理法」に則って適正な廃棄物処理を実施・継続していくために運用している「キッコーマングループ 廃棄物に関するガイドライン」と、最近のトピックスについて学習しています。

●産業廃棄物管理者研修 (2019年12月、キッコーマン東京本社)



7) 協力会社

(1) 取引業者への環境教育

日本デルモンテは、取引業者と定期的に環境影響の低減について協議しています。2011年度、長野工場では、環境影響の大きい業者と年2回協議を実施しました。群馬工場では、営繕関係10社に工場の環境取組みを説明し協力依頼しました。本社では、ビル管理会社と輸送会社に対して、ISO14001についての説明会を開きました。

● 日本デルモンテ長野工場



(2) 関係業者との情報交換会

キッコーマングループは、委託契約している産業廃棄物の収集・運搬及び処分業者との情報共有のさらなる強化を図るために、2015年度から情報交換会を開催しています。

2017年2月にキッコーマン東京本社で開催した情報交換会では、業者側から、キッコーマングループから排出される産業廃棄物の収集・運搬及び処分作業の現状報告や事故など緊急事態発生時の対応策などの説明を聞くとともに、キッコーマングループで運用している「廃棄物ガイドライン」について説明を行い、情報の共有化に努めました。

● 産業廃棄物の収集・運搬及び処分業者との情報交換会 (2017年2月、キッコーマン東京本社)



キッコーマングループは、2018年6月、キッコーマン東京本社において、産業廃棄物の収集・運搬及び処分業者との情報交換会を開催しました。

この情報交換会では、産業廃棄物の収集・運搬及び処分を委託契約している各社の取り扱う産業廃棄物の種類や収集・運搬、中間処理、焼却・肥料化処理などの処理能力に関する報告を受けた後、産業廃棄物管理票（紙マニフェスト及び電子マニフェスト）の運用や、収集・運搬及び処分業者の視察、従業員の教育などに関して、活発な情報交換を行いました。

● 産業廃棄物の収集・運搬及び処分業者との情報交換会 (2018年6月、キッコーマン東京本社)



(3) 産業廃棄物業者懇談会の開催

キッコーマン環境部では、産業廃棄物処理を委託している業者と、コンプライアンスの共有を目的として、懇談会を開催しています。

コロナ禍のため2年ほど開催ができませんでしたが、2021年11月、委託契約を結んでいる大手10社の参加を得て、第4回目の懇談会を開催しました。

席上、キッコーマングループの業務を支える産業廃棄物処理業務の重要性を確認しながら、処理業者の破綻事例をもとに法令順守の重要さと、持続可能な業務契約維持に必要な社内管理の在り方などについて意見交換をしました。



8) 社内評価

(1) 環境表彰

キッコーマングループは、2018年度に「環境表彰」制度を新設しました。

これは、各工場・事業所での環境保全活動のうち、

- 省エネルギー対策やCO₂排出量削減策
- 用水使用量の削減や効率化
- 排水基準管理の徹底や処理の効率化や排水水質の向上
- 廃棄物・副産物の削減と再資源化の向上
- 環境配慮型容器・包装の開発
- 環境マネジメントシステム (EMS) の効率的運用と継続的な改善
- 地域・一般社会とのコミュニケーション推進 (環境美化活動など)

などの点で特に目覚しい成果を挙げた活動や注目に値する活動を対象に表彰する制度です。

「第1回 環境表彰」では、各工場・事業所から示された、最近のキッコーマングループの工場・事業所の環境保全活動24件の中から、2019年5月の環境保全推進委員会において、以下の活動が選ばれました。

【最優秀賞】(1活動)

キッコーマン食品野田工場製造第1部「製麴加湿方法の改善」

【優秀賞】(4活動)

流山キッコーマン「排水処理運転方法の改善」

キッコーマングループ近畿事務所「働き方改革による環境負荷の低減」

キッコーマンソイフーズ茨城工場「温水設備の改良、有効利用」

キッコーマンフードテック西日本工場「充填作業改善による資源の有効活用」

【特別賞】(3活動)

埼玉キッコーマン「eco検定®受験で環境意識を向上」

キッコーマン食品東北支社「営業部門における環境に配慮した取り組み」

日本デルモンテ、日本デルモンテアグリ「デルモンテアグリ製品でグリーンカーテン」

6月(環境月間)にキッコーマン野田本社にて表彰式を開催し、受賞した工場・事業所には、キッコーマン常務執行役員CPO(環境担当)から表彰状と盾が授与されました。

- 表彰式「キッコーマン食品野田工場製造第1部(最優秀賞)」
(2019年6月、キッコーマン野田本社)



- 表彰を受けた事業所メンバー
(2019年6月、キッコーマン野田本社)



キッコーマン環境部では、受賞した工場・事業所および活動の詳細を分かりやすくまとめた環境メールマガジン「シグナルe3」を発行することにより、活動情報を全社に水平展開するとともに、キッコーマングループの全従業員が環境保全の重要性を考える機会づくりと環境保全に対する意識向上を図りました。

2022年4月、「第2回環境表彰」が行われました。

2019年4月から2022年3月の間にキッコーマングループ事業所内で行われた環境活動例を対象にしたところ、27件の応募があり、2022年11月29日に開かれた「環境保全推進委員会」で以下の活動が選ばれました。

【最優秀賞】(1活動)

- キッコーマン食品 野田工場製造第1部 製麴 G「円型製麴蒸気量削減」

【優秀賞】(3活動)

- キッコーマン CC 部 社会活動 G「食のサステナビリティをテーマにした料理講習会を実施」
- キッコーマン食品 野田工場製造第2部 チーム中根「プレートヒーターのCIP洗浄プログラム変更」
- キッコーマンフードテック 西日本工場 製造第1/第2G「設備の容量アップおよび冷却水・洗浄水最適化による用水削減」

VI 環境マネジメントの推進

【優良賞】(3活動)

- キッコーマンフードテック 江戸川工場 エキスG/穀類 G/生産管理 G 「オペレーターのボイラー停止によるCO₂排出量削減」
- キッコーマンソイフーズ岐阜工場 環境保全 G「充填室空調機更新による電気使用量及び用水使用量削減」
- 8事業所[S F岐阜工場、総合病院、埼玉キッコーマン、R & D (中央研究所及び醸造開発センター)、野田本社、K F野田工場、K F T中野台、K F E]「電力の100%再生エネルギーによるCO₂排出量削減」

【Good Action賞】(2活動)

- キッコーマンクリーンサービス「野田本社の廃棄物削減」
- キッコーマン食品 東北支社仙台営業課加工用 G「加工用得意先でのSDGs講習会」

2023年1月11日、キッコーマン野田本社で表彰式が行われ、受賞した工場・事業所に対し、キッコーマン常務執行役員(環境担当)から表彰状と盾が授与されました。

● 表彰式(2023年1月、キッコーマン野田本社)



(2) 環境標語

キッコーマングループは、グループ内での「環境を大切に作る風土づくり」を推進しており、従業員一人ひとりが環境の重要性を考える「きっかけづくり」のひとつとして、環境月間に当たる2017年6月(毎年6月5日は「環境の日」)に、全従業員を対象に、「環境を大切にしよう」と呼びかける環境標語の募集を実施しました。

合計819件にも上る応募作品の中から、三段階にわたる審査を経て、以下の入選作品14作品が選ばれました。

【最優秀作】(1作品)

温暖化 地球が出した イエローカード
(キッコーマン食品野田工場社員)

【優秀作(特別賞)】(1作品)

100年後 残しておきたい 青い地球(ほし)
(日本デルモンテ群馬工場社員)

【優秀作】(2作品)

むだにしない 意識の量だけ ゴミが減る
(キッコーマンソイフーズ岐阜工場社員)
垂れ流し 知らず知らずに 水の危機
(キッコーマン飲料社員)

【佳作】(10作品)

ムダ省きもっと減らせる廃棄物 こつこつ工夫大きな成果
(キッコーマンビジネスサービス社員)
守りぬこう 日々のエコで 子の未来
(キッコーマンソイフーズ岐阜工場社員)
エコ活動 小さな気遣い 大きな財産
(キッコーマンフードテック本社工場社員)
買う前に 捨てるその時 考えて
(キッコーマン食品新潟支店社員)
あたりまえ? いつもの作業を見直そう
(キッコーマンソイフーズ埼玉工場社員)
少しでも CO₂CO₂(コツコツ)削減 私から
(キッコーマンバイオケミファ鴨川プラント社員)
誰かじゃない あなた自身が止める 温暖化
(キッコーマンソイフーズ岐阜工場社員)
高めよう 一人ひとりの エコ意識
(キッコーマンソイフーズ茨城工場社員)
限りある 地球の資源 大切に
(キッコーマンソイフーズ岐阜工場社員)
分別で 貴重な資源 再利用
(キッコーマンフードテック本社工場社員)

これらの入選作品は、キッコーマン環境部で発行している「環境メールマガジン」に随時掲載したり、さまざまな環境教育の場面などでも活用し、従業員の環境保全に対する意識向上を図るためのツールとして利用しています。

2021年6月、キッコーマングループは国内全従業員を対象に、環境標語の募集を行いました。これは、全従業員に環境保全の重要性を認識してもらうために2017年に行った募集の第2弾にあたるものです。

応募総数は前を上回る1028作品。3段階の審査を経て、以下の16作品が入選しました。

【大賞】(1作品)

脱炭素! 未来につなげる 第一歩
(キッコーマン食品野田工場社員)

【金賞】(6作品)

フードロス 作る責任 廃棄ゼロ
(キッコーマン食品野田工場社員)

これからは サステナブルが あたりまえ
 (キッコーマンソイフーズ岐阜工場社員)
 製造者つくる責任最後まで、未来に残そうきれいな地球
 (キッコーマンソイフーズ埼玉工場社員)
 SDGs 未来に向けた 合言葉
 (キッコーマンソイフーズ商品技術開発部社員)
 減らそうフードロス つくろうおいしい記憶、
 皆で取り組む環境活動
 (キッコーマンフードテック西日本工場社員)
 いつまでもあると思うな水資源 この一滴を大切に
 (キッコーマンソイフーズ埼玉工場社員)

【銀賞】(9作品)

見直そう 買いすぎ 捨てすぎ 作りすぎ
 (キッコーマンフードテック江戸川工場社員)
 ECO活動 変えるは自分の意識から
 (キッコーマンソイフーズ岐阜工場社員)
 環境を 守る一手を あなたから
 (キッコーマンソイフーズ埼玉工場社員)
 「もったいない！」地球が喜ぶ エコワード
 (キッコーマンフードテック社員)
 温暖化 地球が発する SOS
 (キッコーマンソイフーズ茨城工場社員)
 今すぐに あなたの变化が 地球を守る
 (キッコーマン国際食文化センター社員)
 エコ活動 出さない 捨てない 汚さない
 (キッコーマンソイフーズ茨城工場社員)
 どの川も 母なる地球の 大動脈
 (キッコーマン食品近畿支部営業部社員)
 この先も 自分で守る 水の星
 (キッコーマンソイフーズ埼玉工場社員)

8月の表彰式には、受賞者を代表して大賞受賞者が出席し、表彰状と盾が授与されました。



9) 社外評価

キッコーマングループは、社外団体による調査に、積極的に参加し、自社の環境保全活動に対する公平性・客観性の高い評価を得ることにより、自社の活動のより改善・改良へとつなげるように努めています。

(1) 日経「SDGs経営調査」

日本経済新聞社が、日経リサーチの協力を得て1997年から開始した、企業の経営と環境対策との両立性を評価して順位付けを行う日経「環境経営度調査」は、2019年から、企業の

- ①SDGs戦略・経済価値
- ②社会価値
- ③環境価値
- ④ガバナンス

の計4項目について評価し、格付け(ランキング)を行う日経「SDGs経営調査」に変わりました。

2023年5月～7月に行われた調査では、キッコーマングループを含む899社の評価、格付けが行われました。

キッコーマングループの総合ランキングは「星3.5」(偏差値58.7)でした。内、環境価値については偏差値60.9で、特に、「温暖化ガスの把握・削減」「持続可能な資源の活用・生物多様性」の指標で高評価を得ました。

(2) 東洋経済「CSR企業ランキング」

東洋経済「CSR企業ランキング」は、東洋経済新報社「財務・企業評価チーム」が毎年行っている、財務と社会的責任(CSR)との両面に優れた企業を選び出すためのアンケート調査です。

2023年度は、キッコーマングループを含む1,714社(上場企業1,645社および未上場企業69社)を、財務および社会的責任(CSR)の両面から評価して順位付けした東洋経済「CSR企業ランキング2024年版」を、週刊東洋経済2024年2月10日号で発表しました。キッコーマングループの「環境」に関する評価は93.4ポイントで、上場企業全体での順位は37位でした。CSR全体での総合順位(上場企業)は162位で、食品製造業では9位となりました。

(3) CDP

CDP(本部：ロンドン)は、企業や自治体に、環境問題対策に関して情報開示を求め、また、それを通じてその対策を促すことを主たる活動としている非営利組織です。

同団体は、主要な国の時価総額が比較的大きい企業に対して、環境に関する情報開示度とパフォーマンス度について回答を求め、その結果を評価(スコアリング)し、公表しています。

キッコーマングループは、2014年度から「CDP気候変動質問書」に回答し、自社の環境保全活動、特に事業活動に伴うCO₂の排出量の削減などの取り組みが世界的にどのような水

準にあるのかを客観的に把握するためのツールとしても活用しています。

「CDP気候変動レポート2023：日本版」に公表された2023年度のキッコーマングループの評価結果は、リーダーシップに分類され、A-（Aマイナス）でした。11の評価項目中、「排出削減活動」など5項目が「A」評価を受けました。

また、「CDP水セキュリティレポート2023：日本版」に公表された2023年度のキッコーマングループの評価結果は、リーダーシップに分類され、最高評価の「Aリスト」に選定されました。11の評価項目中、「定量的目標と定性的目標」「水のアカウンティング」など9項目で「A」評価を受けました。

(4) SBTイニシアチブの認定を取得

キッコーマングループは、2030年度に向けた当社グループの温室効果ガス削減目標が、産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑えるための科学的根拠に基づいた目標であるとして、国際的な共同団体であるSBT (Science Based Targets) イニシアチブ^(※1)より認定を取得しました。

今回認定を取得したキッコーマングループの温室効果ガス削減目標は、次の通りです。

- スコープ1+2^(※2)：2030年度までに温室効果ガス排出量を2018年度比で50.4%以上削減
- スコープ3^(※3)：2030年度までに温室効果ガス排出量を2018年度比で30%以上削減

キッコーマングループは2030年に向けた環境ビジョン『キッコーマングループ 長期環境ビジョン』を策定し、持続可能な社会の実現に向けて、取り組んでおります。「気候変動」に対しては、2050年のCO₂排出量ネットゼロ実現をめざし、産業革命前からの気温上昇を「1.5℃」に抑える努力を追求するため、2030年までに2018年度比CO₂排出量50%以上削減達成に向けた取り組みを推進しております。

※1 SBTイニシアチブ：企業の温室効果ガス排出削減目標が、パリ協定が定める水準と整合していることを認定する国際的イニシアチブ

※2 スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

※3 スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)



(5) ESG株価指数（インデックス）への組み入れ

昨今、企業の「財務情報」に加え、

- ①環境 (Environment) への配慮と取り組み
CO₂排出量の削減、水使用量の削減や水環境の保全、生物多様性の保全などの取り組み
- ②社会 (Social) への配慮と取り組み
人材の多様性 (ダイバーシティ)、女性の活躍、従業員の健康、仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)、地域社会への貢献、人権の尊重などの取り組み
- ③企業統治 ((コーポレート・) ガバナンス (Governance)) の体制と取り組み
取締役会の構成、法令遵守、公正な競争、リスクマネジメント、情報公開などの取り組み

などの、長期的な企業の成長や利益を左右すると評される「非財務情報」も考慮して、企業の価値を推し測り、株式投資の是非を決定するESG投資が、急速に拡大しています。

2006年4月に、当時の第7代国際連合事務総長コフィー・アナン氏が、機関投資家に向けて、ESGを投資プロセスに組み入れた「責任投資原則 (Principles for Responsible Investment (PRI))」を提唱したことがきっかけとなって、このESG投資の考え方が拡がりました。

2018年時点で、2232の年金基金や運用会社などの機関投資家がこのPRIに署名しており、国際団体GSIA (Global Sustainable Investment Alliance) の報告書「2018 Global Sustainable Investment Review (GSIR)」によると、世界のESG投資残高は30兆6830億ドル (約3418兆円) にのぼると推計されています。日本でも、たとえば運用資産額159兆2154億円 (2018年度末時点) にものぼる年金積立金管理運用独立行政法人 (Government Pension Investment Fund (GPIF)) が2015年にPRIに署名、2017年から運用資金の一部をESGに配慮して組成された「ESG株価指数 (インデックス)」を用いた投資に回し始めたことから、ESG投資に対する注目が急速に高まり、日本のESG投資残高も2018年時点で240兆円にまで拡大しています。

ESG株価指数 (インデックス) とは、こうしたESGの観点から設定された基準に沿った評価において、評価結果の高かった上場企業群 (銘柄群) のみで組成された株価指数であり、株式投資での投資プロセスにESGの観点を組み入れるためのツールとして利用されています。指数会社 (指数を作り出した証券取引所や証券会社、専門の指数組成会社など) は、組入銘柄群の採用基準と評価結果を公表しています。

キッコーマン(株) (銘柄コード：2801) は、ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセル社が2001年に、環境 (E)・社会 (S)・企業統治 (G) のグローバル・スタンダードを充足している企業への投資を促進させるためのツールとして開発した株価指数「FTSE4Goodインデックスシリーズ」の構成銘柄に組み入れられています (2018年6月現在)。

VI 環境マネジメントの推進

また、キッコーマン(株)は、年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が日本株へのESG投資のために採用している2つの総合型 (ESG) 株価指数

○FTSE ブロッサムジャパン指数

FTSEラッセル社が開発し、GPIFが2017年から採用したESG株価指数 (インデックス)

○MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

米国のMSCI社 (モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社) が開発し、GPIFが2017年から採用したESG株価指数 (インデックス)

及び

○MSCI日本株女性活躍指数

特に女性活躍に注目した日本株投資のために、米国のMSCI社 (モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社) が開発し、GPIFが2017年から採用した株価指数 (インデックス)

○S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

特に環境への配慮を重視した日本株投資のために、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社と日本取引所グループが共同開発し、GPIFが2018年から採用した株価指数 (インデックス)

の、計4種類の株価指数のすべてに組み入れられています。ちなみに、日本株に投資するこれら4つの株価指数すべてに組み入れられている食品製造業は、キッコーマン(株)を含め、わずか5社しかありません (2018年12月現在)。

(6) 「環境 人づくり企業大賞2020」の優秀賞

キッコーマン株式会社は、環境省が主催する「環境 人づくり企業大賞2020」*において、大企業区分の優秀賞を受賞しました。自然が豊かであることが事業活動と密接に関わっているキッコーマングループが、組織横断的に、環境業務にかかわる研修、講習、啓発、技術支援などの、さまざまな人材育成活動を網羅的に行っていることが評価されました。



*環境省主催「環境 人づくり企業大賞」

「環境 人づくり企業大賞」は、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」第22条の2第2項に基づいて、環境に配慮した企業等活動をリードする人材を育成して輩出し、その活動をバックアップする企業を環境省が表彰するもので、2020年度は7回目の開催となります。表彰対象は、中小企業区分と大企業区分に分けられています。

(7) 産業廃棄物事業功労者への感謝状受賞

千葉県には、廃棄物などの発生抑制や資源の循環利用などを通して、循環型社会形成推進に功労のあった個人や組織を表彰する制度があります。令和3年度には、その制度の中の「産業廃棄物関係事業功労者」としてキッコーマン環境部の糸川吉実さんが選ばれ、2022年1月に千葉県環境生活部長から感謝状が授与されました。

感謝状授与には、糸川さんが長きにわたりキッコーマン環境管理業務に従事し、廃棄物の適正処理の実践、グループ各社の再資源化率の向上、廃棄物処理業者の選定、処理施設への現地視察など、排出事業者として廃棄物処理の流れを適正に管理してきたこと、さらに、近年、廃棄物研修会を開催し、廃棄物担当者や若い世代の人材育成に努めるなど、産業廃棄物の適正処理に多大なる貢献をしてきたことが評価されています。

